



昨年9月に行われた市内でのコンサート

「高校3年生のときに、趣味で弾いていたギターをもっとやりたい」と思い、音楽の道を目指しました。リュートとの出会いは20歳のとき。師である佐藤豊彦先生のコンサートを聴いてやってみたいと思っただけです。

また、リュート習得のためにオランダ王立音楽院へ留学中、声楽家を志して同校へ留学していた奥様の玲子さんと出会いました。「歌とリュートを組み合わせたい」と玲子さん。お二人は、アンサンブルで同じグループになり、友達から大切なパートナーに変わっていったそうです。

帰国後に結婚。音楽活動の拠点として、亨さんの叔父様が住む越谷を選びました。「首都圏に近いので演奏活動にも便利です

中世から18世紀まで宮廷でちよう愛を受けたリュートという楽器は、イスラム圏の楽器「ウード」が祖先といわれています。また、「ウード」がシルクロードを通り、中国で「琵琶」、日本で「琵琶」となったとも伝えられています。西欧の古楽器リュートの音色は、柔らかで優しく、ハープのように多彩です。日本ではまれなリュートのプロ奏者を志した亨さん。



…プロフィール…

1997年オランダから帰国と同時に結婚、越谷に移住。オランダ出身。立川音楽院で音楽を学ぶ。その後、東京音楽大学で音楽学を専攻。卒業後、越谷で音楽活動を行う。現在は、越谷で音楽活動を行う。現在は、越谷で音楽活動を行う。

櫻田 亨のリュートレッスン
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/torulute/>

時代・ひと・場所との出会い。 音楽が結ぶ「一期一会」を大切にしたい

し、芸術に興味を持ってくださる方も多いです。温かく迎えてくれる気質があるようですね」

宮廷では、女王が眠りにつくときに枕元で爪弾かれたというリュート。「コンサートホールで



声楽家
三浦玲子さん

リュート奏者
櫻田 亨さん

いにしへの音色を歌と弦に乗せて奏でるご夫妻は、音楽を自然体で身近なものとして紹介しています。

演奏会やオペラの伴奏などありますが、いちばんリュートの良さが伝わるのは近くで聞いていただくこと」と亨さん。越谷では、趣のあるスペースがあればその場所に合う音楽と組み合わせたい企画を開催。「夏、喫茶店にのびのびと演奏会をしたい」と、そこで夕涼みの演奏会をしたり、お寺で『花鳥風月』を題材に、西欧の楽曲や日本の歌を演奏したりしています。そういう企画を楽しんでくれる人がいるところが越谷の良さですね」と、越谷ではお二人での活動も多いと話します。

現在は、自宅で音楽教室も開設。楽器を習いにきて、音楽に目覚める方も多そうです。「歌は人間にとって究極の欲求であり、喜びでもあります。うれしいときはつい鼻歌がでてしまうでしょう？」と玲子さん。「自分の声で音楽を奏でる喜びというのは格別でしょうし、そのお手伝いができるのは楽しいですね」

亨さんは、今年3月にリュートのソロCDを録音する予定。古楽という音楽に新しい試みを展開されるお二人は、自ら音楽を楽しむ姿がとても生き生きとして魅力的でした。